

(平成21年8月分)

部 門	市況の概要
野 菜	8月期の野菜の入荷状況は、7月の長雨と日照不足により作柄が悪く、多くの品目が全国的に品薄状態となったが、中央集散機能の発揮により、全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、多くの品目が全国的な品薄状態から高値推移し、野菜全体では前年同期を21%上回る結果となった。 品目別には、長大根、きゅうり、ピーマンが入荷前年並みの単価高、西洋にんじん、はくさい、トマト、ばれいしょ、玉葱が入荷増の単価高となり、キャベツ、レタス、ナスが入荷減の単価高となった。また、ほうれんそうは入荷増の単価安となった。 根菜類は、入荷が3%増加し、価格は29%高となった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は19%高となった。 果菜類は、入荷が前年並みで、価格は26%高となった。 土物類は、入荷が7%増加し、価格は48%高となった。
果 実	8月期の果実の入荷状況は、7月の悪天候によって入荷減となった品目が多かったが、梨類などでは降雨により果実肥大が良好で入荷増となり、果実全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、不況による需要の低迷から単価安となる品目が多く、果実全体では前年同期を4%下回った。 品目別には、ハウスみかん、桃、デラウェアが入荷減の単価高、幸水梨が入荷増の単価安となり、津軽りんごは入荷増の単価高となった。また、大玉スイカは入荷前年並みの単価安となり、アールスメロンは入荷量、単価ともに前年並みとなった。 柑橘類は、入荷が20%減少し、価格は20%高となった。 りんご類は、入荷が前年並みで、価格も前年並みとなった。 梨類は、入荷が29%増加し、価格は4%安となった。 桃類は、入荷が22%減少し、価格は4%高となった。 ぶどう類は、入荷が9%減少し、価格は7%高となった。 メロン類は、入荷が17%減少し、価格は3%高となった。 スイカ類は、入荷が前年並みで、価格は22%安となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根	北海道を中心に、青森県、兵庫県、岩手県からの入荷。 主力の北海道、青森では生育期の降雨と日照不足によって作柄が悪かったものの、中央集散機能が発揮され、入荷量は前年並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を29%上回った。
西洋人参	北海道を中心に、青森県からの入荷。 主力の北海道、青森では生育期の降雨と日照不足によって作柄が悪かったものの、中央集散機能が発揮され、入荷量は前年同期を3%上回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を40%上回った。
【葉菜類】 はくさい	長野県を中心に、北海道からの入荷。 各産地ともに生育期の長雨と日照不足によって作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期を14%上回った。 価格は、入荷増ながら全国的には品薄状態のため、前年同期を17%上回った。
キャベツ	群馬県を中心に、長野県、北海道からの入荷。 各産地とも生育期の長雨と日照不足により作柄は悪く、入荷量は前年同期を7%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を63%上回った。
ほうれんそう	岐阜県を中心に、北海道、茨城県、長野県、奈良県からの入荷。 各産地ともに生育期の長雨や日照不足により作柄が悪かったものの、中央集散機能が発揮され、入荷量は前年同期を10%上回った。 価格は、各産地とも長雨等の影響から品質低下が見られ、全国的な品薄状態ながら前年同期を4%下回った。
レタス	長野県を中心に、北海道からの入荷。 各産地とも生育期の長雨や日照不足により作柄は悪く、入荷量は前年同期を15%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を51%上回った。

【果菜類】 きゅうり	福島県を中心に、京都府、愛媛県、奈良県、滋賀県からの入荷。 各産地とも7月の長雨と日照不足から樹勢が低下し、全国的な品薄状態となったものの、中央集散機能が発揮され、入荷量は前年並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を20%上回った。
なす	京都府を中心に、徳島県、岐阜県、和歌山県、滋賀県からの入荷。 各産地とも7月の低温と日照不足から作柄が悪く、入荷量は前年同期を13%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を43%上回った。
トマト	北海道を中心に、岐阜県、京都府、茨城県、青森県からの入荷。 主力の北海道では7月の日照不足の影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期を9%上回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を29%上回った。
ピーマン	大分県を中心に、兵庫県、福島県からの入荷。 主力の大分県では大きな天候の崩れはなく、比較的安定した出荷となり、全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、他品目が高値推移したことから相対的に需要が増えたこともあって、前年同期を14%上回った。
【土物類】 ばれいしょ (メイク含む)	北海道を中心に、青森県、茨城県からの入荷。 各産地とも生育期の長雨と日照不足により作柄が悪く、収穫期の降雨による作業遅れも重なって、全国的な品薄状態が続いていたものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期を3%上回った。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を98%上回った。
たまねぎ	兵庫県を中心に、北海道、中国、京都府からの入荷。 各産地とも生育期の日照不足等により作柄が悪かったものの、高値による前進出荷から、入荷量は前年同期を10%上回った。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、入荷増ながら前年同期を92%上回った。
【その他野菜】 生しいたけ	徳島県を中心に、広島県、和歌山県、岡山県からの入荷。 広島県、岡山県での増産以降は安定した入荷状況であり、入荷量は前年同期を10%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を9%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	佐賀県を中心に、和歌山県、長崎県、宮崎県、高知県からの入荷。各産地とも資材高騰や需要の低迷から栽培面積を減少しており、入荷量は前年同期を24%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を22%上回った。
津軽 （サン含む）	長野県を中心に、山形県からの入荷。 主力の長野県では降雨により果実肥大が良好だったことから、入荷量は前年同期を26%上回った。 価格は、前年が下位等級の割合が多く単価安で推移したため、入荷増ながら前年同期を8%上回った。
幸水梨	富山県、長野県を中心に、佐賀県、徳島県、鳥取県からの入荷。各産地とも降雨により果実肥大が良好だったことから、入荷量は前年同期を12%上回った。 価格は、品質良好であったが、入荷増により前年同期を3%下回った。
桃	長野県を中心に、山梨県、福島県、山形県、和歌山県からの入荷。各産地とも7月の長雨と日照不足により作柄が悪く、入荷量は前年同期を21%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を4%上回った。
デラウェア	山梨県を中心に、山形県、長野県、大阪府、京都府からの入荷。6月の好天により、各産地とも前進出荷気味で、山梨県産の切り上がりが早かったことから、入荷量は前年同期を20%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を8%上回った。
アールス	茨城県を中心に、愛知県、静岡県、京都府からの入荷。静岡県産の入荷が減少したものの、茨城県産や愛知県産の入荷増により、全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、安定した入荷状況から前年並みとなった。
大玉スイカ	山形県、長野県を中心に、石川県、秋田県、福井県からの入荷。各産地とも長雨や低温から作柄が悪かったものの、長野県、石川県、秋田県からの入荷増により、入荷量は前年並みとなった。 価格は、長雨や低温による需要の低迷から、前年同期を23%下回った。